



命や生活を支える湿地を どのように守ればいいのか？

健全な湿地は、災害の被害を軽減し、復旧を早めます。ところが世界中を見ると、湿地は驚くべき速さで減少しています。1900年以来、少なくとも64%の湿地が姿を消しました。



湿地の管理方法を誤ると 災害の被害が拡大する

- 河川改修を行ったり排水を制限したりすると、自然の氾濫原のスポンジ効果が減少し、急激な洪水の勢いが増す。
- エビ養殖池や塩田のためにマングローブを伐採すると、海岸が持つ自然の緩衝帯が失われるとともに、炭素貯蔵量も減少する。
- サンゴ礁を採掘すると、海岸線が異常に強い波にさらされる。
- 農業や開発のために湿地の排水を行ったり、埋め立てたりすると、湿地が本来持っている、洪水に対するスポンジのような機能が失われる。
- 泥炭地を燃やしたり、泥炭地から水を抜いたりすると、大量の二酸化炭素が放出される。



私たちにできることは？

地域コミュニティにできること

- 自分の地域の湿地がどのように利用されているか、過剰に利用されていないか、湿地に依存して生活しているのはどのような人たちが調査する。また、極端な現象が起きた時、自分たちの地域がどのようにして湿地から守られているかも調査する。
- すべての人々のため、地域の湿地の持続可能性が長期に渡って確保できる生活手段を選定する。そのための方法としては、密漁の撲滅、不法投棄の禁止、季節に応じた禁漁期間の設定、漁獲量の制限、活動の種類の調整などが挙げられる。
- 湿地のゴミをなくし、せき止められた河川の流れを取り戻す。

政策決定者にできること

行政は、災害対策戦略策定の際に、湿地を含めることができる。そのための方法には以下のようなものが挙げられる。

- 洪水や暴風雨に襲われやすい地帯にある湿地を保護区にする。
- 荒廃した湿地を再生して、保護壁としての役割を取り戻す。
- 持続可能な農業・漁業・観光業を推進するため、地元の関係者や市民社会と協働する。
- 湿地保全を推進するため、分野横断的な政策を採用する。特に農業や水関連の分野ではこれが重要である。

個人にできること

- 湿地清掃を企画したり、参加したりする。
- 湿地について発信を行う「湿地大使」になる。
- 水を節約し、有毒物質が湿地に流れ込まないようにする。
- 湿地の保全・再生活動に参加する。

フィリピン・タクロバンの 沿岸保全戦略

2013年、フィリピンのタクロバンは、フィリピン史上最悪の台風ハイエンに襲われました。2016年には自然とインフラに基づく新たな計画が出来上がり、将来起こりうる災害に地域が自力で立ち向かう道筋が示されました。オランダエンタープライズエージェンシー (RVO)、フィリピン干拓公社 (PRA)、ならびにデルタレス (Deltares)、アルカディス社 (Arcadis)、国際湿地保全連合、赤十字、レベル (Rebel)、ヴァン・オード社 (Van Oord) の専門家たちは、以下のような対策を組み合わせることを提言し、そのための資金調達方法について概要を示しました。

- マングローブやその他の生態系の再生
- 自然を生かしたインフラ建設に適した場所を沿岸域沿いに見つける
- 地域コミュニティと行政機関の能力養成

ラムサールハンドブック1、2、8、9、10、12、16、19には、災害関連リスク軽減のための湿地管理に関する専門家の提言が載っています。